

自然保育推進事業 活動報告書

1 団体名 尾道市立木ノ庄東幼稚園

2 令和4年度の活動概要

本園は尾道市北部に位置し、棚田に囲まれたのどかな環境である。しかし、少人数運営当時の園舎と隣接した小学校跡地を活用しているため、園内には幼児が遊べる自然環境が少なく、地域環境も田畑に囲まれているため自由に立ち入れる場所がなかった。子供が自然を身近に感じ、自由に取り入れて遊びを発展させられるような園内環境作りと、地域フィールドの開拓を少しずつ行ってきた。今年度に向けた課題として昨年度以下を挙げていた。

- ・昨年度に引き続き、実のなる木を中心に植栽を検討する。
- ・園舎南側の園庭に野花がない。自生する植物が出てくるよう整える。
- ・地域と連携して活用できるフィールドを広げる取組を進める。

その中から『野花に触れる環境』と『地域との連携』を軸に取組を行った。

(1) 環境構成について

- ・枯れた実から種を見つけて遊んだり、葉物が伸びて初めて見る花に驚いたり、それぞれの植物の全てを味わえる長期的な菜園計画を行った。



[桜とは一味違った春の訪れ]

[自分たちで集めた種を使ったままごと]

- ・南側園庭に簡易の花壇を増設し、子供が遊びに取り入れられる植物を増やした。



・野花や自然の植物を持ち込んで、園庭で自生させる取組を行った。



[オナモミが根付き実で当てっこ鬼ごっこ]

[ドクダミが広がり新しい香りを体験]

・地域の方と一緒にサツマイモを植え、やきいも大会を楽しみにお世話を行った。



[豆知識を教えてもらいながら一緒に収穫]

[収穫後は芋づるで思い切り遊ぶ]

・地域の方から種や珍しい植物をいただき、新たな事物と出会える環境を作った。



[初めて見るカボチャ]

[おばけカボチャ乗れるよ]

[なんかプニプニしてきたね]

(2) 遊びの事例

【みんなのいちごを守るぞ！いちご屋さん】



「いちごが食べられてる！守らなきゃ」「今日から網を付けました。入る時は言ってね」

【柏餅の葉っぱ屋さん】



「みんなの分集めてきたよ」

「わたしたちも公園で探してこようかな」

【種で選ぶ花の栽培】



「出てきた！！ハートの種ってどうなるのかな？」

「名札くらい大きくなったよ」

【落ち葉のトランプ】



「にっこりはセーフだけど、怖い顔はババだからな」

【氷の実験】



「氷のコップ」

「スライム氷」

「型抜きでハートの氷できた」

【園外探検】



「ポンド草っていうの」



「勝負だ！！」



「滑り台みたーい」

(3) その他

【今後に向けて】

- ・長期的な栽培計画には長期間植えておける場所の確保が必要である。木枠の花壇を増設し、環境の豊かさを保証する。
- ・遊びの中で、子供たちは素朴な草花に魅力を見出す姿が多く見られる。自然の草を生やしておく場所を決め、計画的に草刈りなどの管理を行う。